

【情報収集・提供事業】

実施事業名	センター情報誌『コラボたかまつ』年4回発行	
事業の内容	現状	対象・ニーズの動向 ・NPOにセンターのことがまだそれほど知られていない。 ・センター内には、NPO活動に役に立つ情報があるが、それらはまだ整理されておらず、また、センターに来なければ入手することができない情報もたくさんある。
	目的	対象(何を、誰を) ・ボランティア団体、市民活動団体 特集記事に該当する団体・組織等(号により異なる) 意図(どのような状況にしたいのか) ・センターをPRし、NPOに知ってもらう ・活動する上で役に立つ情報を提供する。 ・センター内にある情報を整理し、提供する。 ・NPO、行政、市民活動団体に関する情報を提供する。
	手段	活動内容(どうすることによって、事業内容、やり方、手段) 年4回、センター情報を作成し、県内外NPO等へ送付する。 特集...NPOが活動する上で役に立つ情報や、NPO関連情報をわかりやすく提供する。 また、センターに関する情報も提供し、PRに努める。 ・豆まめ知識...活動に役に立つ、ミニ情報を提供する。 突撃、インタビュー！...センター利用団体などにインタビューを行い、活動内容や団体の雰囲気などを紹介する。 ・お役立ち情報...役に立つ情報を提供する。(特集に絡めた内容とする) 助成金情報...助成金情報を掲載する。 ・センター知っとく情報...センターの行事などを紹介する。
実施主体	高松市ボランティア・市民活動センター	
予算	249,000円	
決算(見込み)	92,862円(2月末現在執行額)	
受益者負担	なし	
	目標としている状態 (できるだけ数値化) 注 市民参加事業については参加者数を必ず記入	・No.16...テーマを「コミュニティ」とし、特集ではセンターが取り組んでいる「新しい公」についてまとめ、NPOや市民に紹介する。 ・No.17...テーマを「NPOの会計」とし、9月に実施した講座の内容も絡め、NPO会計の基礎について知ってもらう。 ・No.18...今年度、市と協働で実施中の「協働企画提案事業」についてとりあげ、当事業(4事業)のPRと、協働についての認識を深めてもらう。 ・No.19...センター委託3年目ということで、理事および関係者の方に寄稿してもらい、センターへの思いなどを発信する。 発行部数...各2000部 年間広告料...80,000円 特別編集付録「NPOお役立ち情報集 情報玉手箱」の作成 これまでのコラボ等をまとめ、活動に役立つ冊子を作成する。
	事業成果 注 市民参加事業については参加者数を必ず記入	・No.16...2000部 ・No.17...2000部 No.18...2000部 No.19...2000部(予定) 広告料...3団体より36,000円(19号(3月発行分)含む) 広告料の要項を改定し、ホームページからダウンロードできるようにした。 各号の内容については、別シート各号について参照のこと。

目標達成度	センターの意見・感想	今年度も「特集」と「豆まめ情報」「お役立ち情報」を関連させた記事を作成することで、より具体的な情報を提供することができたと思う。 ・No.16については、特集の際何度も清國先生や大須賀代表と協議を重ねたことで、再度、新しい公についての理念が明確になったと思う。またコミセンにも話を聞くことができ、新しい公へのフィードバックもできるのではと感じる。 ・No.17では、9月に実施した会計講座をまとめた為、講座参加者へも送付することができた。講座とのリンクは内容を講師に確認できるため、充実度の高いものができると感じた。 今年度高松市と共催で実施した「協働企画提案事業」について、各事業の紹介と、どのように進めていったのかを1つの事業に密着し取り上げた。具体的に、流れを追って説明する事ができたため、改めて協働についての啓発ができたのではないかな。 ・19号では、これまでのコラボに掲載した特集、豆まめ知識、お役立ち情報と、「市民活動団体ハンドブック」に掲載していた情報を加筆・訂正し、「NPOお役立ち情報集 情報玉手箱」を作成した。今後、積極的に配布していく予定。 今年度はイラストのみをサポート者に依頼し、レイアウトは担当者がこれまでのものをアレンジして行った。（製作者の了承済） ・広告料の基準を改定し広報したことで、新規の広告掲載依頼があった。しかし目標には達していない為、今後も積極的なPRが必要だと感じる。 特集内容に合わせて適切な発送先を選定し、送付するよう努めた。
	市の意見・感想	コラボたかまつでの記事が、研修事業との連動や、長期にわたり調査・研究に取り組んだ「新しい公」、また新規事業である協働企画提案事業など、非常に充実しており、事業のPR効果もある。また、会計講座参加者にその特集号を送るなど、研修効果を高めることができるよう配慮されており、きめ細やかな対応もセンター利用者にとって喜ばしい点であると考えます。
受益者満足度	今年度より、昨年度要望の高かった「助成金情報」を誌面に盛り込むようにした。 ・16号に関しては、少し内容が難しかったことと、講座等での配布ができなかったせいかアンケートの回収率が悪かった。積極的にPRし、アンケートの回収にも力を入れていきたい。 アンケート集計については別紙シート参照のこと	
事業の改善策と改善により期待される効果	詳細な助成金情報やイベント情報等はニーズが高いが、本誌に全て盛り込むことは不可能な為、メルマガなどへの誘導策などを考える必要がある。 ・アンケートの意見で直ぐに反映できるものは迅速に対応することで、より読者のニーズに沿ったものができるのではないかな。 ・これまでも要望の高かった「連絡先一覧」等の情報については、ある程度原稿の量が確保できれば冊子に収録という形で発行するなどしていきたい。 ・ホームページに特集内容をアップするなど、ウェブ媒体との連携を図ることで、更に効果的な情報発信が可能になる。 ・マスコミなどへもコラボを配布し、積極的にPRを行うことでセンターの周知にもつながる。 ・広告料については、本誌の方針と絡めて今後も基準等を検討する必要がある。（本誌の原稿量と広告のバランスが難しい、レイアウトへの影響など）	
協働づくり委員会意見・感想	・年度を重ねるごとに進歩が見られる分野です。ホームページとの連携などももっと充実させて欲しいです。 読者参加型のコラボも面白そうです。メルマガ等を活用しつつ、反映できないでしょうか。 継続は力というのが一番見える事業であり、センターの存在を周知する一番のツールになっていると思います。 情報の収集、提供について、様々に工夫がなされてきていると評価したいです。 ・スタッフが入れ替わる中で、情報誌の水準を維持することは大変な努力を要したと思いますが、スタッフのスキルアップにもつながることなので、今後とも積極的に特集記事に取り組むとともに、活動現場の声を伝えていただきたいと思います。	

【情報収集・提供事業】

実施事業名	センターメールマガジン	
事業の内容	現状	対象・ニーズの動向 様々なNPOのイベント情報やNPO活動に役に立つ情報が集まるが、センターにこなければそれらの情報を入手することができない。
	目的	対象(何を,誰を) ・ボランティア及びNPO関係者 ・ボランティアに興味のある方 意図(どのような状況にしたいのか) ・センターをPRし,様々な人に知ってもらう。 ・センターに集まった団体・イベント情報などを提供する。 ・助成金情報等を提供し,団体活動の支援情報を提供する。 ・団体の情報提供ツールの一つとなる。
	手段	活動内容(どうすることによって 事業内容 やり方 手段) ・毎月第2・4水曜日にメールマガジンを発行する。 ・メールマガジンに団体からのイベント・ボランティア募集等の情報を掲載できるようにする。 ・ホームページ・コラボ等との連携。
	実施主体	高松市ボランティア・市民活動センター
予算	0円	
決算(見込み)	0円 (2月末現在執行額)	
受益者負担	なし	
目標達成度	目標としている状態 (できるだけ数値化) 注 市民参加事業については参加者数を必ず記入	・メールマガジンの購読者数を増やす。 ・イベント情報・ボランティア情報の掲載量を増やす。 団体の広報手段の一つとなる。
	事業成果 注 市民参加事業については参加者数を必ず記入	・9月までの購読数(個人・NPO・企業など)...168 ・2月までのイベント等掲載依頼数...94 情報掲載依頼について,ウェブ・持ち込み以外にもFAX等での情報提供が可能となるように,今年度より「情報提供シート」を作成し,スタッフ間でも意思統一を図った。 相談があった事項をメルマガに掲載し問合せがあったと,掲載依頼の団体からお礼の報告を4件程度受けた。(物品の引取や助成金情報,ボランティア情報等)
	センターの意見・感想	・イベントなどの情報提供の数は増加し,定期的に情報を提供してくれる団体も増えてきたことは,団体の広報手段のひとつとして認識され始めたからではないか。 ・センター主催講座やコラボでの周知,センター来訪者へのPRを積極的に行ったため,購読者数は少しずつではあるが増加している。 ・今年度も,チラシなどの持ち込みがあった段階で掲載についての合意を得,了解を得たもののみを掲載するようにした。(無断転載 転送対策) ・団体からの依頼は増えているので,今後は一般の方の購読者数を増やすことも考えていかなければならないと感じる。 徐々にNPOや他機関などから情報の掲載依頼が増えており,それに対する反応も少しずつではあるが出てきていることは純粋に嬉しい。今後も地道な情報提供を心がけていきたいと思う。
	市の意見・感想	掲載依頼が増えていることは,メルマガのPR効果であると思います。今後とも内容の充実とそれに伴う読者増に期待します。
受益者満足度	— 受益者が特定できないため,未記入。	

事業の 改善策と改善により 期待される効果	購読者数の増加に努める。 一般 :センター来訪者への積極的なPRに力を入れる。市役所メルマガへの情報提供等。 NPO :データベースの中から随時、団体のメールアドレスを拾い出し、送るようになる。 事業アンケートにてメルマガの登録欄を作ったが、非常に反応が良く、多くの方が 申し込んでくれている。今後も引き続き続けていければと思う 購読者数の増加に伴い、現在の送付システム（一斉送信）だと、受信者の設定によっては迷惑 メールに分類されることもあるようで、届いてない場合もあるようだ。今の所は分割して送付するこ とで対応はできているが、今後の対策や送信システムについて再考する必要があると感じる。 既存のメールマガジン送付システムを使う等 ・イベントや人以外の「備品」などの情報もあれば積極的に掲載し、間接的に団体のサポートを行 う ・センター内での対応を徹底することで、転送や転載が可能になり、更に情報のPR力が高まる。 より読みやすいものにする為、メルマガのレイアウトなども再検討する。
協働づくり委員会 意見・感想	徐々に購読者が増えていることがわかります。さまざまな手段で告知をすることによっ て購読者を伸ばし、情報提供者を増やしていくことが考えられます。情報を精査して、商 業ベースのものについては安くてもよいので広告料などをとったらどうでしょうか。 ・MLには購読者数のマスが必要。媒体としてBtoCで届けられても、広報というものは効 果は1%以下なのが普通であることから考え、読者数の確保が次のハードルではないで しょうか？また両方向の情報交換に繋げるには、手間はかかりますがブログや掲示板へ の誘導を行うというのも手でしょう 情報の収集、提供について、様々に工夫がなされてきていると評価したいです。 購読者数の増加は、センターの地道な取組みの成果だと思います。今後とも、取組み の継続をお願いしたいです。

【情報収集・提供事業】

実施事業名	センターホームページ	
事業の内容	現状	対象・ニーズの動向 ・様々なNPOのイベント情報やNPO活動に役に立つ情報が集まるが、センターにこなければ入手することができない。 ・NPOにセンターのことがまだそれほど知られていない。
	目的	対象(何を、誰を) ・ボランティア及びNPO関係者 ・ボランティアに興味のある方 意図(どのような状況にしたいのか) ・センターをPRし、様々な人に知ってもらう。 ・センターに集まった団体・イベント情報などを提供する。 ・助成金情報等を提供し、団体活動の支援情報を提供する。 ・団体の情報提供ツールの一つとなる。
	手段	活動内容(どうすることによって 事業内容・やり方・手段) ・イベント情報やボランティア募集情報を提供する。 ・助成金情報など支援情報を提供する。 ・その他センター事業や活動に役に立つ情報を提供する。 ・センター主催講座・メールマガジンとの連携。
実施主体	高松市ボランティア・市民活動センター	
予算	0円	
決算(見込み)	0円 (2月末現在執行額)	
受益者負担	なし	
目標達成度	目標としている状態 (できるだけ数値化) 注 市民参加事業については参加者数を必ず記入	・イベント情報・ボランティア情報の掲載量を増やし、更新頻度を上げる。(2週間に1回程度) ・団体の広報手段の一つとなる。(イベント情報、リンク集等) ・センター主催講座やメールマガジンの購読者等の増加。
	事業成果 注 市民参加事業については参加者数を必ず記入	・ホームページ上より、講座・メールマガジンの申込みがくるようになった。また、今年度よりコラボたかまつの広告掲載の要項・申込書等をダウンロードできるようにしたが、それを見ての広告掲載依頼もあった。 ・メールマガジンとあわせて、イベント情報・ボランティア募集・助成金情報などの掲載依頼が増えた。(9月末までで、54件) ・外部の方がリンク集を使い、団体のことを知るようになった。
	センターの意見・感想	・掲載しているNPOのホームページへのリンクを見て、マスコミから取材依頼が来た団体があったり、活動やイベント情報をこちらに掲載してもらいたいとの依頼が増えたなど、団体のPRの手伝いができたのではと感じる。 ・これまでコラボとの連携がほとんど図れていなかったが、今年度より広告掲載要項をアップしたことで、掲載申込があった。9月末まで計4枠)しかし、それ以外はほとんど連携が図れていないため、そちらについては今後も考えていく必要がある。 ・今年度もメールマガジンと連動させて情報を更新することで、定期的に情報を提供してくれる団体も増えてきた。 ・上記情報以外はほとんど更新できていないため、他のコンテンツの更新方法を考える必要があると感じる。 ・メールフォームからセンターについての問合せや利用予約、ボランティアに関する問合せなどがくるようになった。
	市の意見・感想	HP、メルマガ、コラボたかまつなどの情報収集・提供事業が連鎖し、相乗効果が得られるようになってきていると思います。改善と定期的な更新を継続してきた成果だと思います。
受益者満足度	— 受益者が特定できないため、未記入。	

事業の 改善策と改善により 期待される効果	・ホームページ上からのフォームの送信先が担当者だけなので、急ぎの問合せの場合、すぐに対応できないこともある。 担当者が休みの際は他のスタッフがメールチェックし、問合せがあった場合返答することを徹底していきたい。 ・掲載依頼数の増加により、担当者 1人だけでは更新作業等限界がある。 他のスタッフにどのような流れで行っているのか等を説明し、担当者が休みの場合でも支障がないような体制を整えていきたい。 ・現在もコラボとの連携があまりとれていない。過去の特集内容をWeb用に編集し掲載すること等考えていきたい。
協働づくり委員会 意見・感想	・この 3年間で発展・充実してきた分野ではないでしょうか。更新作業はとても地味な仕事ですが、そこを大事にしていることはセンターとしては評価できると思います。 HPは予想外の広がりや効果をもたらすものであり、看板効果は年々高まっています。紙媒体からwebへ軸を変更し、更新頻度を高めることで、センターの広がりを一番手軽にかつ効果的に拡充できるツールだと思います。 情報の収集、提供について、様々な工夫がなされてきていると評価したいです。 現在のセンターの体制の中ではよく努力していると思われますので、コラボの過去の特集内容のHP掲載については、スタッフに余力ができてからでよく、まずタイムリーな対応を優先していただきたいです。